

令和5年度入学 一般選抜前期日程
外国語（英語） 講評

第1問

【出題のねらい】

文の構造，文法，語彙を理解した上で，全体の内容を把握できるかを問う読解問題である。

【講評】

全体的に5割程度の正答率であった。全体の内容を正確に理解できていない受験者がみられた。

問1

語彙，前置詞，分詞について問う問題であったが，非常に正答率が高かった。

問2

容易に日本語の「金縛り」を連想することが出来たせいか，「金縛り」について知っている，本文中に書いていない内容を記載した受験者が多かった。

問3

themの内容を適切に捉えておらず，misunderstandingsを示していたにもかかわらず，「金縛り」と誤って解答している受験者が散見された。指示詞が何を示しているのか，正確に読む必要がある。また，主語のmost of us～，some (of us)～の対応を理解できていない解答も多くみられた。さらに本文では，turn toは「～に当てる」と解釈するべきであったが，「振り返る」・「戻る」などの誤訳が散見された。解答後に，記述した日本語を確認することが望ましい。

問4

難易度もそれほど高くはないと思われたが，白紙の解答が目立った。前半部分（脳は暗い所では多くの視覚情報を得ることができず）については，受験者の8割程度が正答していた。逆に，後半部分（自分が作り出した創造物を誤認する可能性が高くなる）については，受験者の7割以上が，不適切な日本語表現で解答していたり，独自に解釈してストーリーを作っていたりしていた。

問5

全体的に正答率が大変低かった。指示代名詞が何を指しているのかを理解していない解答が散見された。また、paranormal beliefの意味を適切に理解している解答が大変少なく、お化けや幽霊などと、一例を挙げるにとどまる解答も散見された。指示代名詞が何を指すのか、文章の構成も含めて理解すべく準備することが大事である。

第2問

【出題のねらい】

文章を読み、大意とその論理展開を理解できるかを問う問題である。

【講評】

全体的に5割程度の正答率であった。

第3問

【出題のねらい】

基本的な英文法及び基本語彙の用法を理解し、英語で表現する際に応用できるかを問う空所補充の問題である。

【講評】

全体的に3割程度の正答率であった。

問1

前後関係から推測し、それを的確に読み取り、さらに大意を理解することが大切であるが、それができていない受験者が散見された。語順、語句、時制、そして、語用の間違いが減点の対象となった。友人との会話において、ふさわしい表現かどうかも重要である。

問2

①は、正答率が最も高く、④は逆に、最も正答率が低かった。ヒントとしては、"I've thought about it, but tuition for it is expensive."のitであり、“大学院”を示しているが、“work”や“travel”と捉えている受験者が散見された。

第4問

【出題のねらい】

場面に応じた日常会話表現の理解を問う問題である。多様な場面において、広範な話題に適した表現で対応できる力をみることをねらいとした。

【講評】

全体的に7割程度の正答率であった。会話文を読み、設定された状況を正しく想像することができれば、正しい解答を導き出すことができる。日頃から多くの会話文を音読する習慣をつけておくことが望ましい。

第5問

【出題のねらい】

本問題は、提示されている条件に従い、題目に関する自身の意見を、自身の立場を明らかにした上で述べることができる力をみることをねらいとした。

【講評】

全体的に4割程度の正答率であった。条件として、最低5文と記載はされているが、自身の考えを適切な理由を含めて述べるためには、それ以上の文を書く必要がある。また、初歩的な文法（時制の一致、冠詞、完了形、複数形など）の間違ひも散見された。日頃から、論理的に内容を展開し、かつその内容を補完する英文を書けるようにしておくことが望ましい。